

令和 8 年 9 月定例会

所 信 表 明

■令和 8 年 8 月 2 6 日

■午前 1 0 時 0 0 分から

令和8年9月小浜市議会定例会の開会に当たり、所信を申し述べる機会をいただきましたこと、厚く感謝申し上げます。

冒頭、先月発生いたしました熊本地震、ならびに8月千葉豪雨により亡くなられた方々に深悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本市といたしましても、被災地の一日も早い復旧・復興に向け、本日職員一名を八代市に派遣いたします。

被災地の一日も早い復旧・復興に向け、引き続き支援を進めてまいります。

令和6年8月に就任して以来、この2年間、私は「みんなが潤う新しい小浜」の実現に向け、「稼ぐ、活かす、育む」の循環サイクルの確立に全力を注いでまいりました。

「稼ぐ」施策の柱であるふるさと納税は、令和7年度の受入実績が7億9千3百万円に達し、就任前（約2億4千9百万円）の約3倍へと躍進いたしました。

「活かす」施策では「御食国若狭おばまブランド戦略」を軸とした地域価値を高める魅力構築と発信を、
「育む」施策では小学校給食費無償化や中学校給食費の負担軽減、市民体育館の空調整備など、「子どもが主役の社会づくり」を進めてまいりました。

また、私の基本姿勢である「市民の皆様との対話」につきましては、二年間、全地区での対話集会を重ねてまいりました。

さらに子育て世代や福祉関係の団体などから対話集会の申し出もたくさんいただき、市民の皆様が自分事としてまちづくりを考え行動し始めました。

これこそが、私が描いていた対話の次のステップです。

今後は「若い人たちが出て行って帰ってこない」という課題へのアプローチとして、若い世代との対話や会議の場をさらに広げ、若者が挑戦できるまちづくりを進めてまいります。

それでは、本市の主要施策について申し述べさせていただきます。

第一に、「北陸新幹線小浜・京都ルートでの早期全線開業について」でございます。

去る7月15日、与党整備委員会において、改めて「小浜・京都桂川ルート」による新大阪までの延伸が決定されました。

市議会、県議会、経済界および市民団体の皆様、市民のおひとりおひとりが53年の積年の思いを一致結束した要望活動の賜物であり、深く感謝申し上げます。そして、重要なのは令和9年度中の認可・着工の実現であります。そのために着工5条件の解決と環境影響評価の

手続き完了に向け、政府・与党への働きかけをさらに強めてまいります。

また、昨年度から進めている新駅設置予定周辺エリアの整備基本計画を通じ、全線開業時の夢のあるまちづくりの姿を市民の皆様と共創してまいります。

第二に、「御食国若狭おばまブランド戦略」について申し上げます。

今春放映されたドラマ『サバ缶、宇宙へ行く』を通じ、本市の「探究教育」は全国・世界へ発信され、放送終了後も多くの来訪者や教育視察が相次ぐなど、本市は今、大きな注目を集めております。

この好機を捉え、本市の強みである「食・歴史」と「教育」を掛け合わせ、今年度より全庁横断の「食のまちづくり戦略プロジェクトチーム」のもとで推進する「5つの重点プロジェクト」の詳細についてご説明いたします。

1つ目は、「小浜市らしい学校給食の推進と『御食国』

ブランドの牽引役となる農林水産業の振興」であります。

安定的な学校給食の実施と保護者負担の軽減に取り組みつつ、地産地消を推進いたします。特に有機農業をはじめとする環境配慮型農業、ブランド牡蠣の生産拡大、スマート養殖など、新たな農林水産業の担い手育成を強かに支援してまいります。

2つ目は、「小浜西組エリアの面的開発と誘客の取り組み強化」であります。

小浜公園エリアの改修整備、旧小浜小学校跡地の史跡公園整備、まちの駅・旭座の施設改修を実施いたします。これらの地域資源、そこに息づく暮らしや文化とも有機的につながり、一体的に捉え、お客様視点で統一感を持った整備を行うことで、1300年続いてきた歴史や豊かさを「歩いて、見て、食べて、安らげる趣のある場所」として体感していただけるエリアをつくり上げ小浜市全体の発展につなげていきます。

3つ目は、「地域の特色を生かしたスポーツまちづくりの推進」であります。

日常の中に当たり前前にスポーツを取り入れる環境を整えるとともに、本市の強みである「食」と連携し、市民の皆様の健康増進を図ります。「する」「みる」「ささえる」の視点から、誰もが気軽にスポーツに関われる環境を目指します。

4つ目は、「未来を創造する力を育む教育の推進」であります。

これまで培ってきた「ふるさと学習」や「3S 学習」などの探究教育を軸としながら、他者との対話を通じて考えを深める「対話学習」にも取り組み、本市の未来を担う子どもたちの挑戦を応援してまいります。

5つ目は、「戦略的な情報発信」であります。

多様な文化資源の見える化を進め、市民の皆様自身が自らのまちに誇りを持ち、魅力を発信できるよう涵養い

たします。同時に、メディアや消費者に選ばれる滞在コンテンツの造成を進め、効果的な情報発信を行ってまいります。

ブランド戦略とは、一時的なものではなく、世代を超えて小浜の価値を守り、高め、発信し続ける営みであります。

時代がいかに速く変化しようとも、私たちはしっかりと根を張り、「小さくとも太く、力強い木の幹」を築いてまいります。

二年前、市民の負託を受けたあの日、小浜の未来に対して市民の皆様も共に歩むという強い意志を感じました。

一年前、あらゆる世代が融合して「挑戦」を応援していただけるまちづくりを進め、失敗・変化を恐れず挑戦する前向きな姿勢を、私が先頭に立ち責任を負う覚悟を伝えました。

そして今、北陸新幹線が小浜京都桂川ルート一つに絞られ、20年25年後のまちづくりへ小浜市が若狭エリアのハブとなり面的な発展への礎を創り始める大きな使命を感じています。

未来へ、挑戦する小浜へ！

市民の皆様が誇りを持って暮らし続けられる小浜の未来に向け、職員と共に市政運営に邁進してまいります。

議員の皆様、そして市民の皆様の温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げ、私の所信表明といたします。

ご清聴、ありがとうございました。